

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 545 号	氏名	Hasina Yasmin
学位審査委員	主査 甲斐 雅亮	副査 小林 信之	副査 田中 正一
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、N末端にグリシンまたはプロリンを有する短鎖ペプチドに選択的な蛍光検出試薬を開発し、この蛍光反応を新規コラーゲン定量法へ応用したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 ペプチドの蛍光反応に用いる試薬の種類や濃度、反応温度や反応時間、pHなど、各種反応条件を蛍光分光光度計を用いて検討し、新しい反応試薬の探索を行っている。次に、コラーゲンをコラゲナーゼによって選択的に分解し、生じたペプチドをその新規の試薬によって選択的に蛍光を測定する原理に基づき、生体試料中のコラーゲン量を特異的に定量する方法を検討したものであり、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で検討した結果、N末端グリシン含有ペプチドを高選択的に蛍光検出できる 3,4-dihydroxyphenylacetic acid (3,4-DHPAA)を見出している。さらに、3,4-DHPAA とコラゲナーゼの反応を組み合わせた極めて特異的かつ簡便な生体コラーゲンの新規蛍光定量法を開発している。この定量法は、選択性、感度、迅速性において、従来の定量法より優れており、今後、コラーゲンが関与する老化等の研究における新計測法としての活用が期待される。</p> <p>以上のように本論文はコラーゲン研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			